

中田

東京などで中田物産展を開催



▲会場は新鮮な野菜や農産加工品を買い求める人たちにぎわいました

特産品の販売を通じ、PR

都市農村交流促進協議会(小野寺裕幸会長)では11月9日と16日、中田町物産展を神奈川県横浜市と東京都葛飾区でそれぞれ開きました。物産展は、開催地の文化祭やフェスティバルに合わせ実施。中田町の特産品などの販売やPRを通じ、都市と農村の交流を目的に毎年開催しています。当日は、販売開始前から大勢の人が集まり、新鮮な野菜やリンゴ、農産加工品を買い求めていました。会場では、中田の特産品を使用した郷土料理「油麩入りはつと汁」が振る舞われ、寒い中、訪れた人たちの体を温めました。

迫

地域連携防災訓練に620人



▲人体模型を使い、心臓マッサージを学ぶ生徒たち

中学生が災害に備え、学ぶ

佐沼中学校(大内俊吾校長)では11月22日、地域連携総合防災訓練を実施。生徒のほか地域住民やボランティアなど、総勢620人が参加しました。生徒たちは、消防士やボランティアなどの指導を受け、学年ごとに訓練を実施。1年生が防災マップ作り、2年生が救命救急、3年生が避難所開設などの訓練を行いました。救命救急を体験した2年の梅原舞羽さん(光ヶ丘東)は「AEDの使い方など、普段経験できないことを学びました。災害が起きた時はスムーズに行動したい」と話していました。

愛らしい姿に大きな拍手

豊里保育園(菅原勉園長)では12月6日、生活発表会を豊里公民館中ホールで開催しました。発表会には園児108人が参加。0歳児ひよこ組による遊戯「ちっちゃないちご」で幕を開け、14のプログラムを演じました。園児たちの愛らしい姿に、会場から大きな拍手や声援が送られました。会場に詰めかけた保護者らは、園児たちが一生懸命に演じる姿を映像に収めていました。最初は少し緊張した表情を見せていた園児たち。それでも堂々と演じる姿から成長が感じられた1日となりました。

豊里保育園で生活発表会開催

豊里



▲一生懸命演じる園児たちに、会場から大きな拍手や声援が送られました

4千人がとよまの秋、満喫

11月23日、「とよま産業まつり」が登米総合体育館前駐車場を会場に開催されました。会場では、市内産の牛肉や豚肉、新鮮野菜などが販売。購入した食材を使用し、バーベキューをする姿も見られ、訪れた約4千人の人たちでにぎわいました。牛ステーキや「とよま風牛汁」の試食には大勢の人たちが列を作り、あつという間になくなりました。当日は、カップハーフマラソン大会も同時開催。全国各地から参加したランナーたちも訪れ、とよまの秋を満喫していました。

登米総合体育館で産業まつり

登米



▲大好評の「とよま風牛汁」。おいしさに笑顔がこぼれました

米山

入善町のマラソン大会に参加



▲ラストスパート。ゴールまで全力で走り切りました

小中学生がスポーツ交流

11月16日、市と姉妹都市提携している富山県入善町で「扇状地マラソンINにゆうぜん大会」が開催。本市から米山町と南方町の小中学生16人が参加しました。本市から参加した子どもたちは、小学生が3キ、中学生が5キの部にそれぞれ出場、入善町の子どもたちとゴールを目指して走りました。地元の人や応援に駆けつけた保護者らの声援を受け、全員が見事に完走しました。翌日は、地元小学生との交流会。入善町と登米市、それぞれにちなんだクイズ大会やダンスなどで、子どもたちは思い出に残る楽しい時間を過ごしました。

東和

関西の大学生が米川地域訪問



▲古い農具の説明を熱心に聴く大学生たち

「若者・よそ者」の視点で

11月12日から16日までの5日間、「クルル米川プロジェクト」で、奈良大学の学生など9人が米川地域を訪れました。プロジェクトは、「若者・よそ者」の視点を地域づくりに生かそうと昨年から始まった取り組み。住民との交流を通して米川という地域を知ってもらうことが目的です。学生たちは滞在期間中、豆の脱穀作業や古い農具の使い方体験、米川小学校児童との交流会などに参加しました。参加者の1人は、「見たことのない道具に触れ、体験できることはとても魅力的でした」と話していました。